

第24回 大阪歯科保健大会

日時 令和元年10月19日(土) 午後2時～
場所 大阪府歯科医師会館

府民公開講座 4F大ホール

知ってほしい「食べる」に関わる口とカラダのこと ～いつまでも食を楽しむために～



大阪大学歯学部附属病院
顎口腔機能治療部 助教

講師：田中 信和

口から食べることは、本来、生きるための「栄養」を身体に取り込むことを目的とします。しかし、それだけでなく、私たちは食べることに大きな「楽しみ」を発見し、食の時間を人と共有する「交流」の機会すら見出しています。つまり、「食べる」ということは、とても人間らしい活動であり、人生を豊かに過ごすためには欠かせないものとなっています。

「食べる」という行為は、口をはじめとした身体の様々な器官がうまく連携して働くことではじめて成り立っています。この働きが損なわれると、誤嚥や窒息といった危険な事故につながり、大きな楽しみが損なわれてしまいます。それらを予防するためには、何よりもまず、「食べる」という行為を良く知ることが大切です。

そこで今回、「食べる」という行為の成り立ちと、衰えていく機能やそれを補う方法についてお話したいと思います。

みなさんがいつまでも食を楽しめるための一助となれば幸いです。

プロフィール
学歴
2003年 長崎大学歯学部 卒業
2013年 大阪大学博士号取得(歯学博士)

職歴
2005年4月～ 大阪大学歯学部附属病院
顎口腔機能治療部 医員
2010年4月～ 障害福祉施設 四天王寺和らぎ苑 歯科
歯科科長
2013年4月～ 大阪大学歯学部附属病院
顎口腔機能治療部 助教兼外来医長

研究・受賞歴
摂食嚥下機能をはじめとする口腔機能のリハビリテーションに関する臨床・研究を行っている。

- Dysphagia Research Society 27th Annual Meeting, JUSTINE J. SHEPPARD DYSPHAGIA in IDD AWARD. (2019)
- 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 勇美賞 (2016)
- The 23th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Award of 2nd Place Abstract Poster Presentation. (2015)
- The 17th Annual Dysphagia Research Society Meeting, Award of 1st Place Abstract Poster Presentation. (2009)

会員対象講習会 4F大ホール

明日からの歯科診療で役立つ！ 肝炎ウイルスの基礎知識



順天堂大学医学部公衆衛生学講座
客員教授

講師：長尾 由実子

肝臓は、東日本より西日本に多いことがわかっています。日本では、約150万人がC型肝炎ウイルス(HCV)に感染し、約100万人がB型肝炎ウイルス(HBV)に感染していると推定されています。国内の肝臓死亡者数は年間約3万人で、肝炎ウイルス感染がその原因の8割を占めています。

そのため、肝臓の制御にはHCVの駆除、すなわち肝炎ウイルス対策が重要です。近年、治療効果の高い経口抗ウイルス薬が登場し、大半の患者は体内からHCVを排除できるようになりました。

B型肝炎については、核酸アナログ製剤の登場により安全にウイルスを制御できるようになりましたが、HCV治療薬と異なりウイルスを体内から完全に排除することはできません。ですがワクチンには発症を阻止する効果が期待されるため、WHOはB型肝炎ワクチン(HBワクチン)を全世界で全ての人が接種すること(ユニバーサルワクチネーション)を勧告しています。日本でのHBワクチンのユニバーサルワクチネーションは、2016年10月に0歳児を対象として開始されました。HBV感染の注意すべき問題はウイルスの再活性化です。感染者あるいは既往感染者に抗癌剤や免疫抑制剤が投与された場合にウイルスが再増殖し、重症肝炎を発症することがあります。

一方、肝炎ウイルスは肝臓以外の臓器にも種々の病変を引き起こします。とくにHCV感染は多彩な肝外病変を合併することが知られ、口腔領域の肝外病変には、扁平苔癬、シェーグレン症候群、口腔癌があります。日本における扁平苔癬とHCVとの関連は、演者が1995年に初めて報告し(Nagao et al, Eur J Clin Invest 1995)、現在までに疫学、発症要因、抗ウイルス治療との関連等を明らかにしました。HCVによる扁平苔癬の発症にはウイルス・宿主・薬剤の因子が関連します。ゲノムワイド関連解析を通して有意な一塩基多型(SNPs)も見出しまし

た(Nagao et al, Clin Gastroenterol Hepatol 2017)。経口抗ウイルス薬によってウイルスが駆除されると、扁平苔癬も治癒することもわかってきました(Nagao et al, Clin Transl Gastroenterol 2016)。歯科医師が未治療のHCV感染者を拾い上げるゲートキーパーになれることも山口県下関市歯科医師会や愛媛県歯科医師会と証明しました(Nagao et al, Adv Res Gastroenterol Hepatol 2018)(Nagao et al, OBM Hepatology and Gastroenterology 2019)。

2017年、日本歯科医療管理学会会員を対象にオンラインによるウイルス性肝炎の知識と実態調査を行いました。HBワクチン接種率71.2%、肝外病変(扁平苔癬等)の認識39.8%、スタンダードプレコーションの認識82.4%、患者毎にディスプレイ手袋を変える割合73.2%、高速回転切削器具の滅菌率69.3%、低速回転切削器具の滅菌率56.9%、エアタービン用ハンドピースの滅菌率77.1%、根管治療器具の滅菌率63.4%、麻酔カートリッジを再利用しない割合84.3%等でした。各々の回答をスコアリングし統計解析を行った結果、開業歯科医は大学病院勤務医に比べ有意に感染対策のリスクスコアと認識不足スコアが高いこと、男性歯科医は女性歯科医に比べ有意にリスクスコアと認識不足スコアが高いことがわかりました(Nagao et al, Adv Res Gastroenterol Hepatol 2018)。

歯科医師としてウイルス性肝疾患をどう捉えればよいのでしょうか？肝炎ウイルスによる口腔病態と感染対策の観点から論じたいと思います。

プロフィール
略歴
医学博士、口腔外科専門医
1989年3月 福岡歯科大学卒業
1991年1月 久留米大学医学部口腔外科学講座 助教
1997年2月 医療法人社団高邦会高木病院歯科口腔外科
医長
1999年4月 久留米大学先端癌治療研究センター 助教
2003年4月 久留米大学学長直属 講師
2005年4月 久留米大学医学部消化器疾患情報講座
准教授
2015年4月 佐賀大学医学部臓器相関情報講座 教授
(～2019年3月)
2018年10月 順天堂大学医学部公衆衛生学講座 客員教授